

令和 7 年 度

農 薬 実 験 展 示 圃 成 績

令和 8 年 1 月

公益社団法人 石 川 県 植 物 防 疫 協 会

〒920-0007 金沢市田中町か 26-1

(農業共済会館内)

TEL (076) 239-1511 FAX (076) 239-3201

目次

I 水稻等の除草剤

(1) 移植水稻

ア. 一発処理

カクシン1キロ粒剤	5
銀河α1キロ粒剤	7
グッドラックジャンボ	9
セイテン1キロ粒剤	11
センメツZ1キロ粒剤	13
ゼアス1キロ粒剤	15
トリニティ1キロ粒剤	17
ヒッサツ1キロ粒剤	19
レオゼータ300FG	21

イ. 体系処理(初期)

スタメン1キロ粒剤	23
-----------	----

ウ. 体系処理(中・後期)

ゲパードギア1キロ粒剤	25
-------------	----

(2) だいず

モーティブ乳剤	27
---------	----

(3) 大麦

ゴーゴーサン乳剤	28
ザクサ液剤	29

II 水稻等の殺菌・殺虫剤

(1) 移植水稻

C s. オリゼパディート箱粒剤	32
ルミビアFC	36

(2) だいず

ブロフレアSC	38
---------	----

III 野菜の殺菌・殺虫剤

ケンジャフロアブル(きゅうり)	43
フィールドマストフロアブル(だいこん)	44
ホライズンドライフロアブル(ブロッコリー)	45
フィールドマストフロアブル(ブロッコリー)	46
フィールドマストフロアブル (非結球アブラナ科葉菜類(こまつな))	47
ケンジャフロアブル(ブロッコリー)	48

IV 果樹の殺菌・殺虫剤

ダイアジノンMC(もも)	50
エコマイト顆粒水和剤(なし)	51

I 水稻等の除草剤

令和7年度水稲等除草剤実験展示図(技術確認圃)設置一覧表

申請 書 番 号	区分 作物名等		商品名	有効成分名および 成分含有率	登録番号	対象雑草	処理時期	使用量	希望条件等	薬剤取扱上の 注意	試験のねらい 薬剤の特徴など	登録 年月日	委託会社名 (複数の場合は 全社名記入、* が連絡窓口会 社)	実施農林等							
														加 賀	南 加 賀	石 川	県 央	津 幡	羽 咋	中 能 登	県 植 防
29	水稻 除草剤	一発処理	カクシ1キロ粒 剤	イ ⁺ フェンカルハ ⁺ ゾン：2.5% ジ ⁺ メスルファゼ ⁺ ット：1.5% デフリトリオン：2.5%	第24917号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガ ヤツリ、ヒルムシ ロ、セリ、オモダ カ、クログワイ、 コウキヤガラ	移植時、移植直 後～ノビエ3葉 期 但し、移植 後30日まで	1kg/10a	砂質土壌の水田、漏水田での使用は 避けて下さい。 通常の処理は水の出入りを止め、田 面の露出がない十分な水深（3～ 5cm）を保った状態で散布して下さい。 散布後7日間は落水、かけ流しはし ないで下さい。	水稲除草剤取扱の 一般的注意事項に 従ってください。	田植同時処理で の技術実証 一発処理剤（移 植直後～ノビエ3 葉期まで）とし ての技術実証	2024. 11. 13	(*北興化学工 業)						○		○
42	水稻 除草剤	一発処理	銀河α 1キロ 粒剤	ジ ⁺ メスルファゼ ⁺ ット 1.5% ビ ⁺ ラクロニル 2.0% メタゾ ⁺ スルフロ ⁺ ン：1.0%	第24890号 第24890号	一年生雑草及びマ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、ミ ズガヤツリ、ヘラ オモダカ、ヒルム シロ、セリ、オモ ダカ、クログワ イ、コウキヤガラ	移植時、移植直 後～ノビエ3葉 期、ただし移植 後30日まで	1kg/10a	稲の根が露出する条件下では使用を 避けてください。 砂質土壌の水田、漏水田での使用は 避けてください。 ノビエ3葉期までに時期を失しない ように散布してください。なお、多 年生雑草は生育段階によって効果に ふれが出るので、必ず適期に散布し てください。	散布に当たって は、水の出入りを 止めて湛水状態の まま本剤を田面に 均一に散布し、少 なくとも3～4日間 は通常の湛水状態 （水深3～5cm）を 保ち、散布後7日 間は落水、かけ流 しはしないでくだ さい。	田植同時処理で の技術実証 一発処理剤（移 植直後からノビ エ3葉期まで）と しての技術実証	2024. 08. 07	(*日産化学)						○	○	
43	水稻 除草剤	一発処理	グ ⁺ ット ⁺ ラック ジ ⁺ ャンボ ⁺	シクロピ ⁺ リモレート：13.3% トリア ⁺ アモン：3.3% ベンゾ ⁺ ビ ⁺ シクロ ⁺ ン：10.0%	第24671号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、ウリ カワ、ミズガヤツ リ、ヒルムシロ、 セリ、アオミド ロ・藻類による表 層はく離	移植直後～ノビ エ3,5葉期 た だし移植後30日 まで	小包装 （パッ ク）	・砂質土壌の水田・漏水の大きな水 田での使用は避けて下さい。 ・軟弱苗を移植した水田、極端な浅 植えの水田での使用は避けて下さ い。 ・散布後7日間は落水、かけ流しは しないで下さい。	一般農薬の取扱 いに従ってくださ い	・一発処理剤と しての技術実証	2022. 12. 07	(三井化学クロ ップ & ライフソ リューション)						○		○
60	水稻 除草剤	一発処理	セ ⁺ イ ⁺ ン1キロ粒 剤	オ ⁺ キサ ⁺ ジ ⁺ クロ ⁺ メ ⁺ ン：0.8% ジ ⁺ メタトリオン：0.6% フェンキ ⁺ ナトリオン：3.0% ペンスルフロ ⁺ ンメ ⁺ チ ⁺ ル：0.75%	第24815号 第24815号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガ ヤツリ、ヒルムシ ロ、セリ、オモダ カ、クログワイ、 コウキヤガラ、ア オミドロ・藻類に よる表層はく離	移植時、移植直 後～ノビエ2.5 葉期但し、移植 後30日まで	1kg/10 a	苗の植付が均一となるように、代か きおよび植付作業は丁寧に行って ください。軟弱な苗の移植、極端な浅 植えは行わないでください。砂質土 壌の水田及び漏水の大きな水田では 使用を避けてください。 散布後7日間は落水、かけ流しは避 けてください。	一般農薬の取扱 いに従ってくださ い。	一発処理剤（移 植時、移植直後 ～ノビエ2.5 葉期処理）とし ての技術実証	2023. 12. 20	(*マイ化学工 業)		○					○	

申請書番号	区分 作物名等		商品名	有効成分名および 成分含有率	登録番号	対象雑草	処理時期	使用量	希望条件等	薬剤取扱上の 注意	試験のねらい 薬剤の特徴など	登録 年月日	委託会社名 (複数の場合は 全社名記入、* が連絡窓口会 社)	実施農林等									
														加賀	南加賀	石川	県央	津幡	羽咋	中能登	県植防		
64	水稻 除草剤	一発処理	センマツZ1キロ粒 剤	ビラクロニル：2.0% プロピリスルフロ ン：0.9% ジメスルファゼット： 1.5%	第24897号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ウ リカワ、ミズガヤ ツリ、ヒルムシ ロ、セリ、オモダ カ、クログワイ、 コウキヤガラ、ア オミドロ・藻類に よる表層はく離	移植時または移 植直後～ノビエ 4葉期ただし、 移植後30日まで	1kg/10a	・稲の根が露出する条件下では使用 は避ける。 ・砂質土壌、漏水の大きな水田での 使用は避ける。 ・散布後7日間は5～6cmの湛水状態 を保ち、落水・かけ流しはしない。	・一般農薬の取り 扱いに従って下さ い。	田植同時処理で の技術実証 一発処理剤（移 植直後～ノビエ4 葉期まで）とし ての技術実証 ドローン散布に よる一発処理剤 （移植直後～ノ ビエ4葉期まで） としての技術実 証	2024. 08. 28	(*協友アグリ)				○	○					
67	水稻 除草剤	一発処理	ゼマス1キロ粒 剤	オキサジクロメホン：0.4% ジメスルファゼ ット：1.5% ビラクロニル：2.0%	第24886号	一年生雑草及びマ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ、ミ ズガヤツリ、ヘラ オモダカ、ヒルム シロ、オモダカ、 クログワイ、コウ キヤガラ	移植時、移植直 後～ノビエ2.5 葉期、ただし移 植後30日まで	1kg/10a	稲の根が露出する条件下では使用を 避けてください。 砂質土壌の水田、漏水田での使用は 避けてください。 ノビエ2.5葉期までに時期を失しな いように散布してください。なお、 多年生雑草は生育段階によって効果 にふれが出るので、必ず適期に散布 してください。	散布に当たって は、水の出入りを 止めて湛水状態の まま本剤を田面に 均一に散布し、少 なくとも3～4日間 は通常の湛水状態 （水深3～5cm）を 保ち、散布後7日 間は落水、かけ流 しはしないでくだ さい。	田植同時処理で の技術実証 一発処理剤（移 植直後からノビ エ2.5葉期まで） としての技術実 証	2024. 08. 07	(*日産化学)				○						○
80	水稻 除草剤	一発処理	トリニティ1キロ粒 剤	イソフェンカルバ ン：2.5% デフルトリオン：2.0% ベンズルフロメチ ル：0.75%	第24805号	水田一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤツリ、ウリ カワ、クログワイ、シズ イ、オモダカ、ヒルムシ ロ、セリ、アオミドロ、藻類 による表層はく離	移植直後～ノビエ 1.5葉期まで 但し移植後30日 まで	1kg/10a	・砂質土壌の水田、漏水の激しい水 田、極端な浅植えの水田及び浮き苗 が多い水田では使用をさけてくださ い。 ・散布後少なくとも3～4日間は通常 の湛水状態（3～5cm）を保ち、散布 後7日間は落水・かけ流しをしない でください。	・一般農薬の取扱 いに従ってくださ い。	SU抵抗性を含む 各種雑草に対す る効果と一発処 理剤（移植直後～ ノビエ1.5葉期ま で）としての技術 実証。	2023. 11. 22	(石原バティエ ンス)				○						○
84	水稻 除草剤	一発処理 （田植同 時処理）	ヒッサツ1キロ粒 剤	イマズスルフロ ン：0.90% ビラクロニル：2.0% プロモダクト： 15.0%	第24807号	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤツリ、ウリカ ワ、クログワイ、ヒルムシ ロ、セリ、アオミドロ・藻 類による表層はく 離	移植時	1kg/10a	・砂質土壌、漏水の大きな水田、軟 弱な苗を移植した水田及び極端な浅 植えの水田での使用は避けてくださ い。 ・田植同時散布機で処理し、処理後 は速やかに入水してください。 ・散布後3～4日間は3～5cmの 水深を保ち、散布後7日間は落水、 かけ流しをしないでください。	一般農薬の取り扱 いに従ってくださ い	田植同時処理で の技術実証	2023. 12. 06	(*住友化学)				○						○

申請書 番号	区分 作物名等		商品名	有効成分名および 成分含有率	登録番号	対象雑草	処理時期	使用量	希望条件等	薬剤取扱上の 注意	試験のねらい 薬剤の特徴など	登録 年月日	委託会社名 (複数の場合は 全社名記入、* が連絡窓口会 社)	実施農林等							
														加賀	南加賀	石川	県央	津幡	羽咋	中能登	県植防
96	水稻 除草剤	一発処理 ドローン散 布	レセーグ 3 O O F G	フェンキトリオン： 10.0% プロピリスルフロ ン：3.0% プロモフチド： 30.0%	第24699号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、ヘ アモダカ、ミズガ ヤツリ、ウリカ リ、オモダカ、ク ログワイ、コウキ ガサ、ヒルムシ ロ、セリ	移植後3日～ノ ビエ4葉期 た だし、移植後30 日まで	300g/10a	・散布の際は、水の出入りを止めて 湛水状態（水深5～6cm）で、ま きむらが生じないように均一に散布 して下さい。散布後3～4日間は そのまま湛水を保ち、散布後7日 間は落水、かけ流しはしないで下 さい。 ・砂質土壌の水田、漏水の大きな 水田、軟弱な苗を移植した水田及 び極端な浅植えの水田での使用は 避けてください。 ・畦畔から十分離して（推奨は7.5 m以上）水田内に散布してください。	一般農薬の取り扱いに従ってくだ さい	ドローン散布に よる技術実証 （移植後3日～ ノビエ4葉期ま で）	2023. 01. 11	(*住友化学)			○	○				
106	水稻 除草剤	体系処理 （初期）	スタメン1キロ粒 剤	イブフェンカルバ ン：2.5%	第24852号	一年生雑草、マツ バイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ	移植時、移植直 後～ノビエ2.5 葉期 但し、移 植後30日まで	1kg/10a	砂質土壌の水田、漏水田での使用は 避けて下さい。 通常の処理は水の出入りを止め、 田面の露出がない十分な水深（3～ 5cm）を保った状態で散布して下 さい。 散布後7日間は落水、かけ流しはし ないで下さい。	水稻除草剤取扱の 一般的注意事項に 従ってください。	田植同時処理ま たは移植直後～ ノビエ2.5葉期ま での体系処理 （初期）での技 術実証	2024. 03. 13	(*北興化学工 業)	○			○				
120	水稻 除草剤	体系処理 （中・後 期）	ゲバートキア 1キロ粒剤	フェンキトリオン：2.5% シクロヒリモレート：1.5% メタゾスルフロ ン：1.2%	第24835号 第24835号	一年生雑草及び多 年生広葉雑草	移植後14日～ノ ビエ4葉期 た だし、収穫60日 前まで	1kg/10a	稲の根が露出する条件下、砂質土 壌の水田・漏水田での使用は避 けてください。 初期剤または一発処理剤との体系 で使用する、ノビエ4葉期までに 時期を失しないように散布してく ださい。 なお、多年生雑草は生育段階によ って効果にブレが出るので、必ず 適期に散布してください。ホタル イは花径20cmまで、オモダカは 矢尻葉4葉期まで、クログワイは 草丈50cmまでが本剤の散布適期 です。	散布に当たっては、水の出入りを 止めて湛水状態のまま本剤を田 面に均一に散布し、少なくとも3 ～4日間は通常の湛水状態（水深 3～5cm）を保ち、散布後7日 間は落水、かけ流しはしないで ください。	移植栽培におけ る、移植後14 日からノビエ4 葉期までの処理 での技術実証	2024. 02. 14	(*日産化学)	○							○

申請書番号	区分 作物名等		商品名	有効成分名および 成分含有率	登録番号	対象雑草	処理時期	使用量	希望条件等	薬剤取扱上の 注意	試験のねらい 薬剤の特徴など	登録 年月日	委託会社名 (複数の場合は 全社名記入、* が連絡窓口会社)	実施農林等							
														加賀	南加賀	石川	県央	津幡	羽咋	中能登	県植防
178	畑作 除草剤	だいず	モーティブ [®] 乳剤	ジ [®] メナミト [®] P： 19.7% ベン [®] ディメタリン： 23.1%	第23000号	一年生雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	170ml/10a	大豆初生葉期～2葉期のパワーガイ ザー液剤300ml/10aとの体系処理を 行う。砂土では使用しない。	畑作除草剤取り扱 いの一般注意事項 を守ること。	パワーガイザー 液剤との体系処 理による帰化ア サガオ類等難防 除雑草への効果・ 薬害の確認	2011. 11. 30	(B A S Fジ [®] ャ パ [®] ン)			○					
213 (2024)	冬作 除草剤	大麦	ゴー [®] コー [®] サン乳 剤	ベン [®] ディメタリン：30%	第22176号	一年生雑草（キク 科雑草、ツユクサ を除く）	大麦の生育期 (雑草発生前) 但し収穫60日前 まで	500ml/10a <70- 100L/10a>	前処理として播種後に土壌処理剤を 使用する。 砂土では使用しない。	畑作除草剤取り扱 いの一般注意事項 を守ること。砂土 では使用しない。	大麦の生育期、 雑草発生前の一 年生への効果・ 薬害の確認	2008. 06. 25	(BASFジ [®] ャパ [®] ン)		○						
214 (2024)	冬作 除草剤	大麦	サ [®] クサ液剤	ケ [®] ルホネートナトリウム 塩：11.5%	第22902号	一年生雑草	耕起又はは種前 (雑草生育期)	500m l /10a <100～ 150L/10a>	雑草の草丈30 c m以下で散布してく ださい。作物にかからないように注 意してください。展着剤は不要で す。	一般農薬の取扱 いに従ってくださ い	一年生雑草対す る効果の技術実 証	2011. 03. 15	(*三井化学ク ロップ &ライフサイ ン 北興化学工 業)			○					

薬剤名 カクシン1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 県央農林総合事務所津幡農林事務所(津幡町能瀬)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)
慣行 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	カクシン1キロ粒剤 1kg	4月29日 (±0)	田植同時 0cm→6cm	1.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ゼータプラス1キロ粒剤 1kg	4月29日 (±0)	田植同時 0cm→6cm	1.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))								雑草調査日: 6月13日 (+45)				薬害		評点
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類	一年生広葉				ホタル イ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0	0	0	0		0	0				0.0 —	無	100%	A
慣行	0.1	0	0	0.1	0		0	2.8				3.0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※ノビエ、※コナギ、※ホタルイ(※は周辺圃場で発生した雑草)														
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行と同等の除草効果が認められた。														

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 10 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月21日	2025年 4月28日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+50~69 (19日間)
慣行 12 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月21日	2025年 4月28日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+50~69 (19日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	カクシン1キロ粒剤 (1kg)	4月28日 (±0)	田植同時 1cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ガンガン1キロ粒剤 (1kg)	4月28日 (±0)	田植同時 1cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量： 生体重（g/㎡））												雑草調査日：6月8日（+41）		薬害		評点
	ノビエ	カヤツリグサ類	コナギ	タデ類				ホタルイ		クログワイ				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0	0	0				0		t				t (-%)	無	100%	A
慣行	0.9	0	0.1	t				0		0.3				1.3 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ノビエ、タデ類、コナギ、クログワイ(少から中程度)																
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 一部でクログワイの発生がみられたが、慣行より除草効果は高かった。手取り可能なレベルであり、その後の除草剤散布はしなかった。																

薬剤名 銀河α1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 県央農林総合事務所津幡農林事務所(津幡町能瀬)
 区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)
慣行 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	銀河α1キロ粒剤 1kg	4月29日 (±0)	田植同時 0cm→6cm	1.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ゼータプラス1キロ粒剤 1kg	4月29日 (±0)	田植同時 0cm→6cm	1.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))								雑草調査日: 6月13日 (+45)					薬害		評点
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	一年生広葉				ホタ ルイ	多年生雑草					総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0.1	0	0	0	0		0	0					0.1 (3%)	無	100%	A
慣行	0.1	0	0	0.1	0		0	2.8					3.0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※ノビエ、※コナギ、※ホタルイ(※は周辺圃場で発生した雑草)															
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行と同等の除草効果が認められた。															

圃場	除草効果（残草量： 乾物重 (g/m ²))							雑草調査日：6月11日 (＋41日)					薬害		評点	
	ノビエ	カヤツグサ類	一年生広葉				ホタルイ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	t	0					0						t (－%)	無	100%	A
慣行	t	0					0						t (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度)： ※ノビエ(※は周辺圃場で発生した雑草)															
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 慣行と同等程度の除草効果が認められた。															

薬剤名 グッドラックジャンボ
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 県央農林総合事務所津幡農林事務所(津幡町能瀬)
 区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)
慣行 30 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗無し	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月27日	2025年 4月29日	1 cm/日	13 cm 1.9 L	+64~71 (7日間)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	グッドラックジャンボ 小包装(パック)10個(150g)	5月7日 (+8)	畦畔から投入 6cm	2.0L	ノビエ1L(微)
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ゼータプラス1キロ粒剤 1kg	4月29日 (±0)	田植同時 0cm→6cm	1.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))								雑草調査日: 6月13日 (+45)				薬害		評点
	ノビ エ	カヤツ クサ 類	一年生広葉				ホタ ルイ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0.2	0	0	0	0		0	0				0.2 (7%)	無	100%	A
慣行	0.1	0	0	0.1	0		0	2.8				3.0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※ノビエ、※コナギ、※ホタルイ(※は周辺圃場で発生した雑草)														
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行と同等の除草効果が認められた。														

圃場	除草効果（残草量： 生体重（g/m ² ）							雑草調査日：6月8日					(+41)	薬害		評点	
	ノビエ	カヤツクサ類	コナギ	タデ類				ホタルイ		クログワイ				総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0	0	0				0		t				t (-%)	無	100%	A
慣行	0.9	0	0.1	t				0		0.3				1.3 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ノビエ、タデ類、コナギ、クログワイ（少から中程度） 処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 一部でクログワイの発生がみられたが、慣行より除草効果は高かった。手取り可能なレベルであり、その後の除草剤散布はしなかった。																

薬剤名 セイテン1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 南加賀農林総合事務所(能美市福島町)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)
慣行 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	セイテン1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	バッチリLX1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量：生体重（g/㎡））								雑草調査日： 7月8日（+42）					薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類	イボ クサ					ホタ ルイ					総計 <small>下段（）は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	0	0	0.4					0		0				0.4 (22%)	無	100%	A
慣行	1.7	0.1	0					0		0				1.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ノビエ（3～4葉）、カヤツリグサ（6葉程度）、イボクサ																
	処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 慣行と比較して優れた効果が確認できた。慣行は、田面が高く露出したところでノビエが残草した。 使い勝手等は問題なかった。																

薬剤名 センメツZ1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 石川農林総合事務所(白山市寄新保町)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 27 a	42m	砂壤土	土畦畔 畔塗りあり	ゆめみづほ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 5月1日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	17 cm 3.0 L	+38~53 (-)
慣行 27 a	42m	砂壤土	土畦畔 畔塗りあり	ゆめみづほ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 5月1日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	17 cm 3.0 L	+38~53 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	センメツZ1キロ粒剤 1 kg	5月3日 (±0)	田植同時処理 0cm→7cm	3.0L	未発生
	処理 2回目	〔 アクシズ1キロ粒剤 1 kg	6月17日 (+45)	動力散粒機 7cm	9.0L	ノビエ(2~3L)、ホタルイ(4~10cm)
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ベッカク1キロ粒剤 1 kg	5月3日 (±0)	田植同時処理 0cm→7cm	3.0L	未発生
	処理 2回目	〔 アクシズ1キロ粒剤 1 kg	6月17日 (+45)	動力散粒機 7cm	9.0L	ノビエ(2L)、ホタルイ(5~25cm)、オモダカ(5cm)
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 乾物重 (g/㎡))							雑草調査日: 6月13日 (+41)							薬害		評点	
	ノビ エ	かやツ グサ 類						ホタ ルイ		オモ ダカ					総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	t							2.6		0					2.6 (70%)	無	100%	A
慣行	t							3.4		0.4					3.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ※ノビエ、※ホタルイ、※オモダカ(※は周辺圃場で発生した雑草)																	
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行と同程度の除草効果が確認された。																	

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 31 a	6m	沖積・埴壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月23日	2025年 4月27日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+33～63 (-)
慣行 52 a	6m	沖積・埴壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月23日	2025年 4月27日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+33～63 (-)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	センメツZ1キロ粒剤 1kg	4月27日 (±0)	田植同時 0cm→4～5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	〔 クリンチャーバスME 1000mL(100L) 〕	6月4日 (+38)	動力散布 0cm	—	ノビエ1葉期
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	デオレー1キロ粒剤 1kg	4月27日 (±0)	田植同時 0cm→4～5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	〔 クリンチャーバスME 1000mL(100L) 〕	6月4日 (+38)	動力散布 0cm	—	ノビエ1葉期
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量： 生体重（g/m ² ）							雑草調査日：6月3日（+37）					薬害		評点	
	ノビエ	カヤツグサ類					ホタルイ						総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0					0						0 (-%)	無	—	A
慣行	t	0					0						t (100%)	無	—	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度)： ※ノビエ(少) (※は周辺圃場で発生した雑草) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 試験区では残草は確認されず、慣行と同等の除草効果が認められた。 両区とも農家の意向により、調査後(6/4)に2回目除草剤(クリンチャーバスME)を散布。															

薬剤名 ゼアス1キロ粒剤
県名 石川県

作物 移植水稻
実施場所 南加賀農林総合事務所(能美市福島町)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)
慣行 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ゼアス1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	バッチリLX1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量：生体重（g/㎡））							雑草調査日： 7月8日（+42）					薬害		評点		
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類	イボ クサ					ホタ ルイ						総計 下段()は慣行区比		症状・程度	収量比 対慣行
確認圃	0.1	0	0.2					0						0.3 (17%)	無	100%	A
慣行	1.7	0.1	0					0						1.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： 雑草調査時（7/8）：ノビエ（3～4葉）、カヤツリグサ（6葉程度）、イボクサ																
	処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 慣行と比較して優れた効果が確認できた。慣行は、田面が高く露出したところで一部中干し前からノビエが発生し、残草した。 使い勝手等は問題なかった。																

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 10 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月21日	2025年 4月28日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+50～69 (19日間)
慣行 12 a	2m	埴壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 4月21日	2025年 4月28日	1 cm/日	15 cm 2.5 L	+50～69 (19日間)

圃場	処理回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ゼアス1キロ粒剤 (1kg)	4月28日 (±0)	田植同時 1cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ガンガン1キロ粒剤 (1kg)	4月28日 (±0)	田植同時 1cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量： 生体重（g/㎡）								雑草調査日：6月8日（+41）						被害		評価
	ノビエ	カヤツリグサ類	コナギ	タデ類				ホタルイ		クログワイ				総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	t	0	0	0				0		0				t (－%)	無	100%	A
慣行	0.9	0	0.1	t				0		0.3				1.3 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ノビエ, タデ類, コナギ, クログワイ(少から中程度) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 一部でノビエの発生がみられたが、慣行より除草効果は高かった。																

薬剤名 トリニティ1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 南加賀農林総合事務所(能美市大長野町)
 区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗機械移植	2025年 4月27日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+36~64 (-)
慣行 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	コシヒカリ	普通期	稚苗機械移植	2025年 4月27日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+36~64 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	トリニティ1キロ粒剤 1kg	5月6日 (+3)	動力散布機 5cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	シンズイZ1キロ粒剤 1kg	5月6日 (+3)	動力散布機 5cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量：生体重（g/㎡）										雑草調査日：6月18日（+46）		薬害		評点
	ノビエ	カヤツグサ類	一年生広葉				ホタルイ	多年生雑草				総計 下段（）は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0					0 （－％）	無	100％	A
慣行	0.1	0					0					0.1 （100％）	無	100％	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ノビエ（3葉期）														
	処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 慣行と同等の除草効果が確認できた。 使い勝手等は問題なかった。														

薬剤名 ヒッサツ1キロ粒剤
県名 石川県

作物 移植水稻
実施場所 南加賀農林総合事務所(能美市福島町)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)
慣行 30 a	4.0m	壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	晩期	稚苗機械移植	2025年 5月26日	2025年 5月27日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+24~45 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	ヒッサツ1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	バッチリLX1キロ粒剤 1kg	5月27日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/㎡))							雑草調査日: 7月8日 (+42)					薬害		評価
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類					ホタ ルイ					総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	1.7	0.2					0					1.9 (106%)	無	100%	A
慣行	1.7	0.1					0					1.8 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): 雑草調査時(7/8):ノビエ(3〜4葉)、カヤツリグサ(6葉程度)、イボクサ														
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 慣行と同等の効果が確認できた。確認圃、慣行ともに田面が高く露出したところで一部中干し前からノビエが発生し、残草した。 使い勝手等は問題なかった。														

薬剤名 レオゼータ300FG
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 石川農林総合事務所(白山市寄新保町)

区分 一発処理

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 27 a	42m	砂壤土	土畦畔 畔塗りあり	ゆめみづほ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 5月1日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	17 cm 3.0 L	+38~53 (-)
慣行 27 a	42m	砂壤土	土畦畔 畔塗りあり	ゆめみづほ	普通期	稚苗移植栽培	2025年 5月1日	2025年 5月3日	1.5 cm/日	17 cm 3.0 L	+38~53 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	レオゼータ300FG 300g	5月7日 (+4)	ドローンによる散布 7cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ベツカク1キロ粒剤 1kg	5月3日 (±0)	田植同時処理 0cm→7cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量： 乾物重 （g/㎡））							雑草調査日： 6月2日 (+30)						薬害		評点		
	ノビ エ	かヤツ グサ 類	タデ 類					ホタ ルイ		オモ ダカ					総計 <small>下段()は慣行区比</small>		症状・程度	収量比 対慣行
確認圃	0.5	0	t					0		t					0.5 (3233%)	無	100%	B
慣行	0	0	0					t		0					0.0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度)： ※ノビエ(中)、※ホタルイ(中)、※オモダカ(少)(※は周辺圃場で発生した雑草)																	
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 確認圃では、慣行と比べて雑草の発生が早く確認されたことから、移植後30日となる6月2日に残草調査を実施した。 その結果、確認圃ではノビエ(1～2L)が1m ² あたり91.5本と慣行より多く発生していた。																	

薬剤名 スタメン1キロ粒剤
県名 石川県

作物 移植水稻
実施場所 南加賀農林総合事務所加賀農林事務所(加賀市庄町)

区分 体系処理(初期)

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	5.3m	沖積・埴壌土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗機械移植	2025年 5月8日	2025年 5月12日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+39～64 (-)
慣行 30 a	5.3m	沖積・埴壌土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗機械移植	2025年 5月8日	2025年 5月12日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+39～64 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	スタメン1キロ粒剤 1kg	5月12日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	〔 ワイドショット1キロ粒剤 1kg	5月29日 (+17)	ドローン散布 5cm	5.0L	未発生
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	ソルネット1キロ粒剤 1kg	5月12日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	〔 ワイドショット1キロ粒剤 1kg	5月29日 (+17)	ドローン散布 5cm	5.0L	未発生
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量： 生体重（g/㎡））								雑草調査日：6月24日（+43）						薬害		評点
	ノビ エ	かやつ グサ 類	一年生広葉				ホタ ルイ	多年生雑草				総計 <small>下段（）は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行			
確認圃	0	0					0						0 (－%)	無	100%	A	
慣行	0	0					0						0 (100%)	無	100%		
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： －																
	処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 確認圃および慣行のいずれも、均一に散布できた。 慣行と同等の除草効果を確認できた。																

薬剤名 ゲパードギア1キロ粒剤
 県名 石川県

作物 移植水稻
 実施場所 南加賀農林総合事務所加賀農林事務所(加賀市庄町)

区分 体系処理(中・後期)

圃場/面積	標高	土質土性	畦畔状況	品種	作期	栽培方法	植代日	移植日	減水深	移植苗草丈・葉齢	中干
確認圃 30 a	5.3m	沖積・埴壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗機械移植	2025年 5月8日	2025年 5月12日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+39～64 (-)
慣行 30 a	5.3m	沖積・埴壤土	土畦畔 畔塗あり	ひやくまん穀	普通期	稚苗機械移植	2025年 5月8日	2025年 5月12日	1.5 cm/日	15 cm 2.5 L	+39～64 (-)

圃場	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	〔 ソルネット1キロ粒剤 1kg	5月12日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	ゲパードギア1キロ粒剤 1kg	5月29日 (+17)	動散 5cm	5.0L	未発生
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	〔 ソルネット1キロ粒剤 1kg	5月12日 (±0)	移植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	ワイドショット1キロ粒剤 1kg	5月29日 (+17)	動散 5cm	5.0L	未発生
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 6月24日 (+43)					薬害		評点
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類	一年生広葉				ホタル イ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0					0					0 (-%)	無	100%	A
慣行	0	0					0					0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): —														
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 確認圃および慣行のいずれも、均一に散布できた。 慣行と同等の除草効果を確認できた。														

薬剤名 モーティブ乳剤
県名 石川県

作物 大豆
実施場所 石川農林総合事務所(白山市寄新保町)

圃場/面積	作型	土質土性	品種	耕起日	播種日	定植日	備考
確認圃 30 a	普通	埴壤土	里のほほえみ	2025年6月16日	2025年6月17日	-	
慣行 30 a	普通	埴壤土	里のほほえみ	2025年6月16日	2025年6月17日	-	

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	モーティブ乳剤 170mL(100L)	6月18日	乗用管理機 乾	播種後・出 芽前	発生前
	処理 2回目	パワーガイザー液剤 300mL(100L)	7月4日	乗用管理機 乾	本葉2L	ヤナギタデ(1cm)、アサガオ類(5cm)
	処理 3回目					
慣行 (30 a)	処理 1回目	エコトップP乳剤＋クロロICP 500mL＋250mL(100L)	6月18日	乗用管理機 乾	播種後・出 芽前	発生前
	処理 2回目	パワーガイザー液剤 300mL(100L)	7月4日	乗用管理機 乾	本葉2L	ヤナギタデ(1cm)、アサガオ類(5cm)
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量g/m ² ）乾物重								雑草調査日：7月3日（処理15日後）					薬害		評点	
	イネ科一年生				広葉一年生				多年生雑草				総計 下段（）は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
	イヌ ビエ				ヤナギ タデ	カヤツリ グサ類			アサガ オ類	キシユウ スズメノ ヒエ							
確認圃	0				0.1	0			0.6	0				0.7 (44%)	無	100%	A
慣行	0				0.2	0			1.4	0				1.6 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： ※アサガオ類、※ヤナギタデ（※は周辺圃場で発生した雑草）																
	処理時の状況及び所感（特記事項等含む）： 7/3残草調査では、慣行と同等程度の除草効果となった。 7/18残草調査では、確認圃0.1g/m ² 、慣行5.4g/m ² となり、慣行比2％と除草効果は高くなった。																

作物 大麦

実施場所 南加賀農林総合事務所(小松市古府町)

圃場/面積	作型	土質土性	品種	耕起日	播種日	定植日	備考
確認圃 30 a	普通秋播き大麦	壤土	ファイバースノウ	2024年 10月1日	2024年 10月11日	—	
慣行 30 a	普通秋播き大麦	壤土	ファイバースノウ	2024年 10月1日	2024年 10月11日	—	

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	リベレーターG粒剤 5kg	10月11日	動力散粉機(土壌処理(全面)) 乾	播種直後 出芽前	未発生
	処理 2回目	ゴーゴーサン乳剤 500mL(100L)	10月25日	動噴鉄砲噴口(土壌処理(全面)) 乾	1.75～2.0 葉期	発生始期、広葉雑草出芽期
	処理 3回目					
慣行 (30a)	処理 1回目	リベレーターG粒剤 5kg	10月11日	動力散粉機(土壌処理(全面)) 乾	播種直後 出芽前	未発生
	処理 2回目	ボクサー乳剤 500mL(100L)	10月25日	動噴鉄砲噴口(土壌処理(全面)) 乾	1.75～2.0 葉期	発生始期、広葉雑草出芽期
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量g/m ² ） 乾物重								雑草調査日： 11月25日（処理31日後）				薬害		評点	
	イネ科一年生				広葉一年生				多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
	カラス ムギ [*]				カラスノ エンドウ											
確認圃	-				t								t (-%)	11/1に確認、葉先黄 化	100%	A
慣行	t				0.2								0.2 (100%)		100%	
備考	無処理区での発生雑草（発生程度）： カラスムギ、カラスノエンドウ															
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 重複散布か所(主には場外周部)で薬害(葉先黄化)が見られたが、新葉に薬害は見られず、その後回復し、収量に影響は見られなかった。 残草量は少なく、効果は確認された。															

薬剤名 ザクサ液剤
県名 石川県

作物 大麦
実施場所 石川農林総合事務所(白山市源兵島町)

圃場/面積	作型	土質土性	品種	耕起日	播種日	定植日	備考
確認圃 30 a	普通	砂壤土	ファイバースノウ	(水稻収穫日) 2024年8月20日	2024年10月10日	-	
慣行 30 a	普通	砂壤土	ファイバースノウ	(水稻収穫日) 2024年8月20日	2024年10月10日	-	

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	ザクサ液剤 500mL(100L)	9月20日	乗用管理機(茎葉処理(全面)) 乾	播種前	ヤナギタデ35cm(中)、カヤツリグザ類35cm(少)、 イヌビエ30cm(少)、(キシュウスズメノヒエ50cm(多))
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (30 a)	処理 1回目	無処理	-	- 乾	播種前	ヤナギタデ35cm(中)、カヤツリグザ類35cm(少)、 イヌビエ30cm(少)、(キシュウスズメノヒエ50cm(多))
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果（残草量g/m ² ）乾物重								雑草調査日：10月4日(処理14日後)					薬害		評点		
	イネ科一年生				広葉一年生				多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行			
	イヌ ビエ				ヤナギ タデ	カヤツ リグサ 類				キシユ ウスズメ ノヒエ								
確認圃	0				0	0				0					0 (-%)	無し	100%	A
慣行	3.5				19.5	0.8				(31.0)					23.9(54.9) (100%)	無し	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度)： カヤツリグサ類：少、ヤナギタテ：中、イヌビエ：少、(キシユウスズメノヒエ：多)																	
	処理時の状況及び所感(特記事項等含む)： 確認圃の雑草は枯死し、除草効果が確認された。																	

Ⅱ 水稻等の殺菌・殺虫剤

令和7年度 水稻等殺菌・殺虫剤実験展示園設置一覧表

申請書 番号	区分 作物名 等	薬剤名 (登録番号)	有効成分名 成分含有率	対象病害虫	使用基準	試験のねらい 薬剤の特徴など	展示園設置上 の留意点	対照薬剤	登録年月日	委託会社名 ★連絡窓口 会社	実施農林						
											加賀	南 加賀	石 川	県 央	津 幡	羽 咋	中能 登
1	水稻	C s . オ リ ゼ バ ディート箱粒剤 (第24800号) ※高密度播種また は通常播種量	シアントラニリブ ロール 0.75% プロベナゾール 16.0%	いもち病 ニカメイチュウ イナゴ類	使用時期 緑化期～ 移植当日（高密度に は種する場合は、移 植3日前～移植当日） 使用回数 1回 使用量 育苗箱（30 ×60×3cm、使用土壌 50）1箱当たり50g 高密度に播種する場 合は1kg／10a（育苗 箱（30×60×3cm、使 用土壌50）1箱当たり 50～100g）	効果および薬害の確認	—	一任	2023/11/22	オリゼメート 普及会 ★北興化学				○ 高密度		○ 通常量	
6	水稻 (直播)	ルミビアFS (第24771号)	クロラントラニリブ ロール 50.0%	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ フタオビコヤガ	使用時期 は種前 使用回数 1回 使用量 乾燥種もみ 1kg当り原液4～7 mL	種子処理による水稻のイネミズ ゾウムシ、イネドロオイムシ、 フタビコヤガに対する防除効果 の検討、薬害確認。 特徴： 1. 水稻の主要害虫であるコブ ノメイガやニカメイチュウなど のチョウ目害虫、並びにイネミ ズゾウムシやイネドロオイムシ に高い活性があり、効果が長期 間続きます。 2. 有用昆虫への影響がほとん どありません。	浸種期間中における水交換 は 4 回以内としてくださ い。 使用前に容器をよく振って ください。 本剤を処理した種もみは食 料や動物飼料として用いな いください。 使用残液及び容器の洗浄水 等は河川等に流さずに適切 に処理してください。	一任	2023/8/23	日本農薬		○	○				
9	だいず	プロフレアSC (第24422号)	プロフラニド 5.0%	マメシンクイガ ハスモンヨトウ	使用時期 収穫前日まで 使用回数 3回以内 希釈倍数 2000～4000倍 使用量 100～300L/10a	試験薬剤の防除効果の確認と試 験作物に対する薬害の有無確 認。	・浸透性はありますが、か けむらの無いように丁寧な 散布をお願いいたします。 ・本剤はIRAC30。同じRAC番 号の薬剤との連用とならな いように注意願います。	現地慣行（一 任）	2024/10/30 (適用拡大)	三井化学クロッ プ & ライフソリュー ション	○				○		

農薬（水稻）実験展示圃成績書

農薬名：C s. オリゼパディート箱粒剤 担当：県央農林総合事務所 宮下博行

1. 設置場所 金沢市才田町

2. 展示方法

(1) 対象病害虫名 いもち病、ニカメイチュウ、イナゴ類

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	対 照 区	備 考
栽培様式	機械移植	同左	
供試品種	百万石乃白	同左	
育苗様式	高密度播種育苗	同左	乾粳250g/箱
移植期	5月14日	5月14日	出穂期:8月12日 成熟期:9月22日
栽植密度	17cm×30cm (19.6株/㎡)	同左	10箱/10a

(3) 区制及び面積 1区 1連制 展示区40 a、対照区40 a

(4) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	C s. オリゼパディート箱粒剤	5月14日	1kg/10a (100 g /箱)
対照区	D r. オリゼリディア箱粒剤	5月14日	1kg/10a (100 g /箱)

3. 調査成績

(1) 調査結果

区 名	葉いもち 25株調査(7月25 日)	穂いもち 25株調査(9月22 日)	備 考
展 示 区	発病度：0	発病穂率：0%	
対 照 区	発病度：0	発病穂率：0%	

区 名	ニカメイチュウ 50株調査(7月14 日)	ニカメイチュウ 50株調査(8月18 日)	備 考
展 示 区	食害株率：0%	食害株率：0%	
対 照 区	食害株率：0%	食害株率：0%	

区 名	イナゴ類 20回振り（6月25日）		イナゴ類 20回振り（7月7日）		備 考
	周辺部	中心部	周辺部	中心部	
展 示 区	幼虫数1頭 成虫数0頭	幼虫数2頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数0頭	
対 照 区	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数1頭 成虫数0頭	幼虫数1頭 成虫数0頭	幼虫数1頭 成虫数0頭	

(2) 葉害の有無
なし

4. 病害虫の発生状況

いもち病及びニカメイチュウともに展示区、対照区で未発生となった。
イナゴ類は、6月25日の調査では展示区で幼虫1～2頭、対照区で幼虫1頭が確認され、7月7日の調査で対照区の中心部のみ幼虫1頭が確認された。

5. 考 察（防除効果等）

防除効果は対照薬剤と同等であった。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

葉害がなく、対照区と同等の効果が認められたことから普及性あり。

県央農林総合事務所

展示区薬剤名：C s. オリゼパダイート箱粒剤
対照区薬剤名：D r. オリゼリダイア箱粒剤

1 耕種概要

区分	品種名	播種日 月／日	播種量 g/箱	使用床土名	使用覆土名	育苗上の特記事項※
展示区	百万石乃白	4/22	250	セセキ培土 ライト	セセキ培土 ライト	平置き無加温育苗
対照区	百万石乃白	4/22	250	セセキ培土 ライト	セセキ培土 ライト	平置き無加温育苗

※育苗上の特記事項には、プール育苗や平置き無加温育苗なども記入する。

2 苗質調査

区分	草丈 cm	葉数 L	第1鞘 高長 cm	地上部 乾物重 g	充実度 mg/cm	地下部 乾物重 g	根長 cm	根がら み程度	苗質 調査日 月／日
展示区	13.6	2.6	5.1	1.80	1.32	1.22	5.7	良	5/14
対照区	15.8	2.3	5.7	1.59	1.01	0.68	5.6	良	5/14

3 概評

幼苗であり、展示区、対照区とで同等であった。

- 【調査方法】
- ・草丈、葉数、第1鞘高長

… 調査個体数は200本

・地上部乾物重

… 調査個体数は100本、根、籾殻を除く地上部のみ

・充実度

… 1cm当たり乾物重を示す。地上部、籾殻を除く根部のみ

・地下部乾物重

… 調査個体数は100本、地上部、籾殻を除く根部のみ

・根長

… 調査個体数は20本、茎基部より根の先端までの長さ

・根がらみ程度

… 次のa、bのいずれか又は双方で観察する「良、中、不良」

a 育苗箱の苗を手づかみで持ち上げた反応

グロツクがこわれるもの → 良

グロツクがこわれるもの → 不良

または、b 育苗箱の苗をめぐり、根がらみ程度（ワット形成程度）を観察

農薬（水稻）実験展示圃成績書

農薬名：C s.オリゼパディート箱粒剤 担当：中能登農林総合事務所 前翔太郎

1. 設置場所 羽咋市土橋町

2. 展示方法

(1) 対象病害虫名 いもち病、ニカメイチュウ、イナゴ類

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	対 照 区	備 考
栽培様式	機械移植	同左	
供試品種	コシヒカリ	同左	
育苗様式	稚苗育苗	同左	乾粳140 g /箱
移植期	5月9日	同左	出穂期：7月28日 成熟期：9月4日
栽植密度	18.5cm×30cm (18.0株/m ²)	同左	

(3) 区制及び面積 1区 1連制 30a

(4) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	C s.オリゼパディート箱粒剤 ビームエイトトレボンゾル	5月9日田植え同時 8月8日	1kg/10a (50g/箱) 5倍 0.8L/10a※
対照区	D r.オリゼリディア箱粒剤 ビームエイトトレボンゾル	5月9日田植え同時 8月8日	1kg/10a (50g/箱) 5倍 0.8L/10a※

※散布機：無人ヘリ

3. 調査成績

(1) 調査結果

区 名	葉いもち 25株調査 (7月23日)	穂いもち 25株調査 (8月26日)	備 考
展 示 区	発病度：0	発病穂率：0%	
対 照 区	発病度：0	発病穂率：0%	

区 名	ニカメイチュウ 50株調査 (7月1日)	ニカメイチュウ 50株調査 (8月26日)	備 考
展 示 区	食害株率：0%	食害株率：0%	
対 照 区	食害株率：0%	食害株率：0%	

区 名	イナゴ類 20回振り (7月1日)		イナゴ類 20回振り (7月23日)		備 考
	周辺部	中央部	周辺部	中央部	
展 示 区	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数1頭	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数0頭	
対 照 区	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数1頭	幼虫数0頭 成虫数0頭	幼虫数0頭 成虫数1頭	

(2) 薬害の有無
無し

4. 病害虫の発生状況

管内のいもち病およびニカメイチュウの発生は少なく、展示区、対照区ともに未発生となった。

イナゴ類は、7月1日の調査において展示区、対照区ともに中央部で1頭確認され、7月23日の調査においては、対照区の中央部で1頭が確認された。

5. 考 察（防除効果等）

防除効果は対照薬剤と同等であった。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

薬害がなく、対照区と同等の効果が認められたことから普及性あり。

中能登農林総合事務所

展示区薬剤名：C.s.オリゼバダイート箱粒剤

対照区薬剤名：D.r.オリゼリダイヤ箱粒剤

1 耕種概要

区分	品種名	播種日 月/日	播種量 g/箱	使用床土名	使用覆土名	育苗上の特記事項※
展示区	コシヒカリ	4月12日	乾粳140	いなほ培土	いなほ培土	
対照区	コシヒカリ	4月12日	乾粳140	いなほ培土	いなほ培土	

※育苗上の特記事項には、プール育苗や平置き無加温育苗なども記入する。

2 苗質調査

区分	草丈 cm	葉数 L	第1鞘 高長 cm	地上部 乾物重 g	充実度 mg/cm	地下部 乾物重 g	根長 cm	根がら み程度	苗質 調査日 月/日
展示区	13.0	2.67	4.18	2.34	1.80	0.69	5.45	良	5月13日
対照区	12.5	2.66	4.31	2.22	1.77	0.71	5.87	良	5月13日

3 概評

両区において草丈および葉齢に差はなく、根がらみ程度は良い苗であった。また、地上部乾物重および充実度についても差は見られなかった。

- 【調査方法】
- ・草丈、葉数、第1鞘高長

… 調査個体数は200本

・地上部乾物重

… 調査個体数は100本、根、粳殻を除く地上部のみ

・充実度

… 1cm当たり乾物重を示す。地上部乾物重（1個体）/草丈×100

・地下部乾物重

… 調査個体数は100本、地上部、粳殻を除く根部のみ

・根長

… 調査個体数は20本、茎基部より根の先端までの長さ

・根がらみ程度

… 次のa、bのいずれか又は双方で観察する 「良、中、不良」

a 育苗箱の苗を手づかみで持ち上げた反応
 ゾロツクがこわれにくいもの → 良
 ゾロツクがこわれるもの → 不良

または、b 育苗箱の苗をめぐり、根がらみ程度（ゾロツト形成程度）

農薬（水稻）実験展示圃成績書

農薬名：ルミビアF S 担当：南加賀農林総合事務所 大石敦也・西山和一

1. 設置場所 小松市小島町

2. 展示方法

(1) 対象病害虫名 イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	対 照 区	備 考
栽培様式	乾田直播	同左	
供試品種	ひやくまん穀	同左	
育苗様式 (播種様式)	V溝直播	同左	播種量 乾粃 7kg/10a
移植期 (播種時期)	4月20日	同左	出穂期：8月8日 成熟期：9月20日
栽植密度 (苗立数)	141.2本/m ² (35.3本)	126.8本/m ² (31.7本)	

(3) 区制及び面積 1区 1連制 30a

(4) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	ルミビアF S キヒゲンR 2フロアブル	4月10日	塗抹処理・5mL/乾粃 1kg 塗抹処理・20mL/乾粃 1kg
対照区	ヨーバルシードF S キヒゲンR 2フロアブル	4月10日	塗抹処理・10mL/乾粃 1kg 塗抹処理・20mL/乾粃 1kg

※展示薬剤及び対照薬剤を塗抹した後に、キヒゲンR 2フロアブルを塗抹した。

3. 調査成績

(1) 調査結果

① イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ

区 名	イネミズゾウムシ (50株調査)	イネドロオイムシ (25株調査)
	6月5日	6月16日
展 示 区	食害株率 : 0% 寄生成虫数 : 0頭/株	幼虫数 : 0頭/株
対 照 区	食害株率 : 0% 寄生成虫数 : 0頭/株	幼虫数 : 0頭/株

② フタオビコヤガ

区 名	フタオビコヤガ (20回すくい取り調査)		備考
	6月16日	7月18日	
展 示 区	幼虫数 : 0頭	幼虫数 : 0頭	任意の2カ所を調査
対 照 区	幼虫数 : 0頭	幼虫数 : 0頭	〃

(2) 薬害の有無 無し

4. 病害虫の発生状況

イネミズゾウムシは、管内のほ場内で食害および成虫が確認されたものの、展示区や対照区および周辺ほ場では発生は確認されなかった。イネドロオイムシ、フタオビコヤガについては、発生は確認されなかった。

5. 考 察（防除効果等）

イネミズゾウムシおよびイネドロオイムシについて、両区とも調査ほ場に発生は見られず、フタオビコヤガの発生も同様であったため、防除効果は同等と考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

薬害が無く、対照区と同等の効果が認められたため、普及性はあると考える。

農薬（水稻）実験展示圃成績書

農薬名：ルミビアFS 担当：石川農林総合事務所 津川香織

1. 設置場所 白山市上安田町

(1) 対象病害虫名 イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	対 照 区	備 考
栽培様式	乾田直播	同左	
供試品種	コシヒカリ	同左	播種量 乾粳 7kg/10a
育苗様式 (播種様式)	V 溝直播種	同左	
移植期 (播種時期)	4 月 28 日播種	同左	出穂期：8 月 10 日 成熟期：9 月 20 日
栽植密度 (苗立数)	25cm×5cm (210 本/㎡)	同左	

(3) 区制及び面積 1 区 1 連制 30 a

(4) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	ルミビアFS +キヒゲンR 2フロアブル	3 月 27 日	7ml/kg・49ml/10a+ 20ml/kg・140ml/10a
	トレバリダビーム粉剤	8 月 9 日	3kg/10a
対照区	ヨーバルシード +キヒゲンR 2フロアブル +ペリディウムクオリティ	3 月 27 日	7ml/kg・55ml/10a+ 20ml/kg・140ml/10a+ 2ml/kg・14ml/10a
	トレバリダビーム粉剤	8 月 9 日	3kg/10a

3. 調査成績

(1) 調査結果

区 名	イネミズゾウムシ 50 株調査 (6 月 5 日)		備 考
展 示 区	食害株率： 4 %	成虫数： 0	任意の 50 株を 調査
対 照 区	食害株率： 30 %	成虫数： 0	

区 名	イネドロオイムシ 25 株調査 (6 月 20 日)	備 考
展 示 区	幼虫数：0	任意の 25 株 を調査
対 照 区	幼虫数：0	

区 名	フタオビコヤガ すくい取り調査 (6 月 20 日)	フタオビコヤガ すくい取り調査 (7 月 18 日)	備 考
展 示 区	幼虫数：0	幼虫数：0	任意の 2 か所 ですくい取調 査 (20 回)
対 照 区	幼虫数：0	幼虫数：0	

(2) 薬害の有無 無し

4. 病害虫の発生状況

展示区や対照区および周辺ほ場では、イネミズゾウムシの発生は確認されたものの、イネドロオイムシおよびフタオビコヤガの発生は確認されなかった。

5. 考 察（防除効果等）

イネミズゾウムシの食害株率は展示区 4%、対照区 30%で、展示区剤は対照区剤より防除効果が高かった。また、イネドロオイムシ、フタオビコヤガは調査基準日に両区で発生が確認されなかったことから、展示区剤は対照区剤と同等の防除効果があると考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

薬害はなく、対象病害虫に対する防除効果が確認されたことから、普及性はあると考えられる。

農薬（大豆）実験展示圃成績書

農薬名：プロフレアSC 担当：南加賀農林総合事務所加賀農林事務所

猪野雅哉

1. 設置場所 加賀市加茂町

2. 展示方法

(1) 対象病害虫名 マメシクイガ、ハスモンヨトウ

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	参 考 区	備 考
供試品種	里のほほえみ	同左	
作型	普通期	同左	
播種期	6月7日	同左	
開花期	7月23日	同左	
収穫期	10月23日	同左	
栽植密度	78.7cm×7.0cm (18.2本/m ²)	同左	

(3) 区制及び面積 1区 1連制 30a

(3) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	クルーザーMAXX アミスター20フロアブル +プレバソンフロアブル5 アミスタートレボンSE プロフレアSC	5月30日	8mL/乾燥種子kg、塗沫処理
		7月26日	16倍0.8L/10a、無人ヘリ
		8月16日	8倍0.8L/10a、無人ヘリ
		8月31日	16倍0.8L/10a、無人ヘリ
参考区	クルーザーMAXX アミスター20フロアブル +プレバソンフロアブル アミスタートレボンSE スタークル液剤10	5月30日	8mL/乾燥種子kg、塗沫処理
		7月26日	16倍0.8L/10a、無人ヘリ
		8月16日	8倍0.8L/10a、無人ヘリ
		8月31日	16倍0.8L/10a、無人ヘリ

3. 調査成績

(1) 調査結果

①ハスモンヨトウ

区 名	ハスモンヨトウ（100株）	
	散布前（8月26日）	散布14日後（9月16日）
展 示 区	寄生虫数： 0頭/株	寄生虫数： 0頭/株
参 考 区	寄生虫数： 0頭/株	寄生虫数： 0頭/株

②マメシクイガ

区 名	マメシクイガ（20株）	備 考
展 示 区	被害粒率： 1.19%	任意の20株を脱粒・調製し、被害粒を調査
参 考 区	被害粒率： 0.09%	

(2) 薬害の有無
無

4. 病害虫の発生状況

ハスモンヨトウは周辺ほ場を含めて発生が見られなかった。

マメシクイガの発生は周辺ほ場を含めてほとんど発生が見られなかった。

5. 考 察（防除効果等）

ハスモンヨトウおよびマメシクイガのいずれも、周辺ほ場も含めて被害は少発生であり、参考区と概ね同等の防除効果があったと考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

無人航空機で散布でき、薬害もなかったことから、普及性はあると考えられる。

農薬（大豆）実験展示圃成績書

農薬名：プロフレアSC 担当：県央農林総合事務所津幡農林事務所

浅沼健一郎

1. 設置場所 津幡町湖東

2. 展示方法

(1) 対象病害虫名 マメシНКイガ、ハスモンヨトウ

(2) 耕種概要

項 目	展 示 区	対 照 区	備 考
供試品種	里のほほえみ	同左	
作 型	普通期	同左	
播種期	6月12日	同左	
開花期	7月27日	同左	
収穫期	11月4日	同左	
栽植密度	75cm×7.7cm (17.3株/m ²)	同左	

(3) 区制及び面積 1区 1連制 30 a

(4) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	散布時期	散布量
展示区	スミチオン乳剤 プロフレアSC トレボン乳剤	8月28日	アームスプレー 1000倍、150L/10a
		8月28日	2000倍、150L/10a
		9月15日	1000倍、150L/10a
対照区	スミチオン乳剤 プレバソフロアブル5 トレボン乳剤	8月28日	アームスプレー 1000倍、150L/10a
		8月28日	4000倍、150L/10a
		9月15日	1000倍、150L/10a

3. 調査成績

(1) 調査結果

区 名	ハスモンヨトウ 寄生虫数(頭)		備 考
	散布前 100株調査(8月25日)	散布14日後 100株調査(9月11日)	
展 示 区	0頭	0頭	
対 照 区	0頭	0頭	

区 名	マメシНКイガ 被害粒率（20株抜き取り精子実重100g中）	備 考
展 示 区	0.0%	
対 照 区	0.0%	

(2) 薬害の有無

・無し

4. 病害虫の発生状況

・管内のハスモンヨトウ、マメシНКイガの発生は少発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

・ハスモンヨトウとマメシНКイガへの防除効果は対照区と同等であった。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

・対象区と同等の効果があり、薬害もないことから、普及性あり。

Ⅲ 野菜の殺菌・殺虫剤

令和7年度 野菜殺菌・殺虫剤実験展示図設置一覧表

申請書 番号	薬剤名 (登録番号)	有効成分名 成分含有率	対象作物	対象病害虫	使用基準	試験のねらい 薬剤の特徴など	展示図設置上 の留意点	対照薬剤	登録年月日	委託会社名 ★連絡窓口 会社	実施農林						
											加賀	南 加賀	石 川	県 央	津 幡	羽 咋	中能 登
3	ケンジャフロアブル (第23993号)	イソフェタミド 36.0%	きゅうり	灰色かび病 菌核病 うどんこ病	使用時期 収穫前日まで 使用回数 4回以内 希釈倍数 1500倍 使用量 100～3000ℓ/10a	ローテーション防除の中で、 灰色かび病、菌核病、うどん こ病防除剤としての普及性を 確認する。 既存のSDHI耐性菌にも有効 で、次世代の菌密度を低減さ せる効果を有し、有用生物や 天敵生物への影響がほとんど なく、IPMに適した薬剤。	－	一任(SDHI 剤)	2017/11/20	石原バイオサ イエンス				○			
5	フィールドマストフロ アブル (第24849号)	ジクロロメゾチアズ 18.4%	だいこん	ハイマダラノメ イガ、コナガ	使用時期 収穫3日前まで 使用回数 2回以内 希釈倍数 4000倍 使用量 100～300L/10a	効果および薬害の確認。 発生状況によりハイマダラノ メイガ、コナガに対する防除 効果確認。 特徴： ①コナガに卓効を示し、アオム シ、ハイマダラノメイガ、ハス モンヨトウ等のチョウ目、キス ジノミハムシ等のコウチュウ 目、ハエ目に活性示す。 ②園芸分野で唯一となる IRAC:4E分類。 ③既存殺虫剤に対し感受性が 低下したコナガ個体群にも高 い活性を示す。 ④ミツバチへの影響が少な い。	蚕に対して影響を及ぼすお それがあるので、養蚕で使 用する桑葉にかからないよ うにしてください。	一任	2024/3/4	日本農薬				○			
13	ホライズンドライフロ アブル (第20354号)	シモキサニル 30.0% ファモキサドン 22.5%	ブロッコリー	黒すす病	使用時期 収穫前日まで 使用回数 3回以内 希釈倍数 2500倍 使用量 100～300ℓ/10a	薬効薬害の確認。 予防効果の高いファモキサド ンと感染直後の治病効果に優 れるシモキサニルの混合剤。 感染直後の散布でも有効であ るため、感染機会が多い重要 防除時期に適した殺菌剤。	－	一任	2021/8/11 (適用拡大)	日産化学	○						

申請書 番号	薬剤名 (登録番号)	有効成分名 成分含有率	対象作物	対象病害虫	使用基準	試験のねらい 薬剤の特徴など	展示圃設置上 の留意点	対照薬剤	登録年月日	委託会社名 ★連絡窓口 会社	実施農林						
											加賀	南加賀	石川	県央	津幡	羽咋	中能登
14	フィールドマストフロ アブル (第24849号)	ジクロロメゾチアズ 18.4%	ブロッコリー	ハスモンヨトウ	使用時期 収穫3日前まで 使用回数 2回以内 希釈倍数 4000倍 使用量 100～300L/10a	効果および被害の確認。 特徴： ①コナガに卓効を示し、アオムシ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ等のチョウ目、キスジノミハムシ等のコウチュウ目、ハエ目に活性示す。 ②園芸分野で唯一となるIRAC:4E分類。 ③既存殺虫剤に対し感受性が低下したコナガ個体群にも高い活性を示す。 ④ミツバチへの影響が少ない。	蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにしてください。	一任	2024/3/4	日本農薬				○			
17	フィールドマストフロ アブル (第24849号)	ジクロロメゾチアズ 18.4%	非結球アブラナ科葉菜類 (こまつな)	コナガ ハスモンヨトウ	使用時期 収穫前日まで 使用回数 2回以内 希釈倍数 4000倍 使用量 100～300L/10a	効果および被害の確認。 特徴： ①コナガに卓効を示し、アオムシ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ等のチョウ目、キスジノミハムシ等のコウチュウ目、ハエ目に活性示す。 ②園芸分野で唯一となるIRAC:4E分類。 ③既存殺虫剤に対し感受性が低下したコナガ個体群にも高い活性を示す。 ④ミツバチへの影響が少ない。	蚕に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにしてください。	一任	2024/3/4	日本農薬					○		
19	ケンジャフロアブル (第23993号)	イソフェタミド 36.0%	ブロッコリー	黒すす病	使用時期 収穫前日まで 使用回数 3回以内 希釈倍数 1500倍 使用量 100～300L/10a	ローテーション防除の中で、近ねん問題となっている黒すす病に対する防除剤としての普及性を確認する。 既存のSDHI耐性菌にも有効で、次世代の菌密度を低減させる効果を有し、有用生物や天敵生物への影響がほとんどなく、IPMに適した薬剤。	ー	一任(SDHI剤)	2017/11/20	石原バイオサイエンス	○						

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：ケンジャフロアブル 担当：県央農林総合事務所 西野舞

1. 設置場所 金沢市打木町

2. 展示方法

(1) 対象作物名 きゅうり

(2) 対象病害虫名 灰色かび病、菌核病、うどんこ病

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	参考区	備考
供試品種	ハイグリーン21	同左	
は種期	1月31日	同左	
定植期	3月12日	同左	
収穫期	4月15日	同左	
栽植密度	うね幅 135 cm×株間 40 cm 1条植え (1,851株/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1区 1連制 130 m²

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	ケンジャフロアブル	1,500倍	220L/10a	5月12日
参考区	アフエットフロアブル	2,000倍	220L/10a	5月12日

※両区とも液肥（サンピ）を混用散布

(6) 散布時の生育状況 収穫期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区名	灰色かび病、菌核病の発生果率	備考
	最終散布1週間後 (5月20日)	
展示区	0	各区任意の 20果を調査
参考区	0	

区名	うどんこ病の発病度		備考
	散布前 (5月9日調査)	散布8日後 (5月21日調査)	
展示区	0	0	各区任意の 10株全葉 を調査
参考区	0	0	

(2) 薬害の有無
薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

産地全体で灰色かび病、うどんこ病は少発生、菌核病は発生なしであった。

5. 考察（防除効果等）

展示薬剤は、灰色かび病、菌核病、うどんこ病に対し慣行薬剤と同等の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、灰色かび病、菌核病、うどんこ病に対し慣行薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はある

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：フィールドマストフロアブル 担当：県央農林総合事務所 渡辺一成

1. 設置場所 石川県河北郡内灘町向栗崎

2. 展示方法

(1) 対象作物名 だいこん

(2) 対象病害虫名 ハイマダラノメイガ、コナガ

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	対照区	備 考
供試品種	夏の守	同左	
作型	露地普通播き	同左	
は種期	8月16日	同左	
収穫期	10月16日～18日	同左	
栽植密度	条間 20cm×株間 32 cm (15,625 本/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1区 1連制 1a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	フィールドマストフロアブル	4,000倍	200L/10a	9月18日
対照区	ディアナSC	3,000倍	200L/10a	9月18日

(6) 散布時の生育状況 生育期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	コナガ幼虫数		ハイマダラノメイガ 幼虫数		備 考
	散布前	散布 7日後	散布前	散布 7日後	
展 示 区	0	0	0	0	各区任意の15株 を調査
対 照 区	0	0	0	0	

※散布前：9月17日調査、散布7日後：9月25日調査

(2) 薬害の有無

薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

試験ほ場では9月上旬から、ハイマダラノメイガの発生が認められた。コナガの発生はなかった。

5. 考 察（防除効果等）

展示薬剤は、ハイマダラノメイガ、コナガに対し対照薬剤と同等の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、ハイマダラノメイガ、コナガに対し対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はある。

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：ホライズンドライフロアブル 担当：南加賀農林総合事務所

加賀農林事務所 北口博之

1. 設置場所 加賀市庄町66

2. 展示方法

(1) 対象作物名 ブロッコリー

(2) 対象病害虫名 黒すす病

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	対照区	備 考
供試品種	おはよう	同左	
作型	春作無被覆	同左	
は種期	2 月 20 日	同左	
定植期	4 月 5 日	同左	
収穫期	6 月上旬～	同左	
栽植密度	畝幅 130cm×株間 40cm、2 条植え (3,846 株/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1 区 1 連制 15 a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	ホライズンドライフロアブル	2,500倍	150ℓ /10a	5月3日
対照区	アミスター20フロアブル	2,000倍	150ℓ /10a	5月3日

(6) 散布時の生育状況 定植約30日後 生育期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	発病度		備 考
	散布前 (5月3日調査)	散布10日後 (5月13日調査)	
展 示 区	0	0	任意の30株を 調査
対 照 区	0	0	

(2) 薬害の有無

薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

展示ほ場では発生が認められなかったが、加賀市内ほ場では、少発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

展示薬剤は、黒すす病に対し対照薬剤と同程度の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、黒すす病に対し対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はあると考えられる。

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：フィールドマストフロアブル 担当：県央農林総合事務所 西野舞

1. 設置場所 金沢市湖南町

2. 展示方法

(1) 対象作物名 ブロッコリー

(2) 対象病害虫名 ハスモンヨトウ

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	参考区	備 考
供試品種	ジェットドーム	同左	
は種期	7月22日	同左	
定植期	8月19日	同左	
収穫期	10月8日～	同左	
栽植密度	畝幅 100 cm×株間 35 cm 2 条植え (4,620 本/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1 区 1 連制 1 a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	フィールドマストフロアブル	4,000倍	200L/10a	9月26日
参考区	コテツフロアブル	2,000倍	200L/10a	9月26日

(6) 散布時の生育状況 生育期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	ハスモンヨトウ幼虫数		備 考
	散布前 (9月24日調査)	散布7日後 (10月2日調査)	
展 示 区	5	0	各区任意の15株 を調査
参 考 区	1	0	

(2) 薬害の有無

薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

試験圃場では、9月中旬頃からハスモンヨトウの発生が認められた。

5. 考 察（防除効果等）

展示薬剤は、ハスモンヨトウに対し参考薬剤と同等の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、ハスモンヨトウに対し参考薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はある。

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：フィールドマストフロアブル 担当：県央農林総合事務所津幡農林事務所

窪田泰之

1. 設置場所 内灘町湖西

2. 展示方法

(1) 対象作物名 こまつな

(2) 対象病害虫名 コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	参考区	備考
供試品種	里きらり	同左	
作型	ハウス周年	同左	
は種期	9月18日	同左	
収穫期	10月22日～26日	同左	
栽植密度	条間15cm×株間5.5cm (121,200株/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1区 1連制 240㎡

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	フィールドマストフロアブル	4,000倍	200L/10a	10月2日
参考区	マッチ乳剤	2,000倍	200L/10a	10月2日

※両区ともにモスピラン水溶剤 4,000倍を混用

(6) 散布時の生育状況 生育期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区名	コナガ幼虫数		アオムシ幼虫数		ハスモンヨトウ幼虫数		備考
	散布前	散布7日後	散布前	散布7日後	散布前	散布7日後	
展示区	1	0	0	0	0	0	各区任意の15株を調査
参考区	0	0	0	0	0	0	

※散布前：10月2日調査、散布7日後：10月9日調査

(2) 薬害の有無

薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

試験ほ場では9月下旬から、コナガ、ハスモンヨトウの発生が認められた。アオムシの発生はなかった。

5. 考察（防除効果等）

展示薬剤は、コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウに対し参考薬剤と同等の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウに対し参考薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はある。

農薬（野菜）実験展示圃成績書

農薬名：ケンジャフロアブル 担当：南加賀農林総合事務所加賀農林事務所

北口博之

1. 設置場所 加賀市庄町62

2. 展示方法

(1) 対象作物名 ブロッコリー

(2) 対象病害虫名 黒すす病

(3) 耕種概要

区名 項目	展示区	対照区	備 考
供試品種	おはよう	同左	
作型	春作無被覆	同左	
は種期	2月20日	同左	
定植期	4月7日	同左	
収穫期	6月上旬～	同左	
栽植密度	畝幅 130cm×株間 40cm、2条植え (3,846株/10a)	同左	

(4) 区制及び面積 1区 1連制 15a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区名	薬剤名	希釈倍率	処理量	処理日
展示区	ケンジャフロアブル	1,500倍	150ℓ /10a	5月3日
対照区	アミスター20フロアブル	2,000倍	150ℓ /10a	5月3日

(6) 散布時の生育状況 定植約30日後 生育期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	発病度		備 考
	散布前 (5月3日調査)	散布10日後 (5月13日調査)	
展 示 区	0	0	任意の30株を 調査
対 照 区	0	0	

(2) 薬害の有無

薬害は認められなかった。

4. 病害虫の発生状況

展示ほ場では発生が認められなかったが、加賀市内ほ場では、少発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

展示薬剤は、黒すす病に対し対照薬剤と同程度の防除効果があると考えられた。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、黒すす病に対し対照薬剤と同等の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はあると考えられる。

IV 果樹の殺菌・殺虫剤

令和7年度 果樹殺菌・殺虫剤実験展示園設置一覧表

申請書番号	薬剤名 (登録番号)	有効成分名 成分含有率	対象作物	対象病害虫	使用基準	試験のねらい 薬剤の特徴など	展示園設置上 の留意点	対照薬剤	登録年月日	委託会社名 ★連絡窓口 会社	実施農林						
											加賀	南加賀	石川	県央	津幡	羽咋	中能登
2	ダイアジノンMC (第24937号)	ダイアジノン 30.0%	もも	ウメシロカイ ガラムシ	使用時期 収穫21日前まで 使用回数 2回以内 希釈倍数 1,500倍 使用量 200～700L/10a	効果、薬害の確認 特徴： ①マイクロカプセル製剤。高分子膜で包むことで普通物化、臭い減少、水和剤対比で人畜・環境への影響を低減。 ②アセチルコリンエステラーゼを阻害する有機リン剤。 ③幅広い害虫に有効であり、ダイアジノン水和剤と同等の速効性。 ④植物への浸透移行性、浸達性は乏しい。 ⑤モモコフキアブラムシにも登録あり	桑葉にかからないように注意する(蚕毒)。ミツバチの巣箱およびその周辺にかからないようにする。受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避ける。	一任	2025/1/15	日本農薬				○			
6	エコマイト顆粒水和剤 (第21098号)	スピロジクロフェン 38.0%	なし	ハダニ類	使用時期 収穫14日前 使用回数 1回 希釈倍数 2000倍 使用量 200～7000L/10a	エコマイト顆粒水和剤は昨年なし・ぶどうに適用拡大いたしましたので、なしの展示園をご依頼させていただきます。ご検討のほどよろしくお願いいたします。 ハダニの卵・幼虫に高い効果、天敵有用昆虫に影響が少なく環境に優しい。	ー	一任	2024/3/13 (適用拡大)	アグロカネ ショウ			○	○			

農薬（果樹）実験展示圃成績書

農薬名：ダイアジノンMC 担当：県央農林総合事務所 西山駿

1. 設置場所 金沢市袋板谷町

2. 展示方法

(1) 対象樹種名 もも

(2) 対象病虫害名 ウメシロカイガラムシ

(3) 供試樹の概要

供試品種	日川白鳳
栽培仕立	開心自然形
樹 齢	18年生樹
収 穫 期	7月23日 ～ 8月7日
栽植密度	7m × 7m 20本／10a

(4) 区制及び面積 1区 1連制 10a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区 名	薬剤名	散布日	濃度・散布量	備考
展示区	ダイアジノンMC ロブラル水和剤	6月13日	2,000倍 1,000倍 4000/10a	動噴散布
参考区	ダイアジノン水和剤34 ロブラル水和剤	6月13日	2,000倍 1,000倍 4000/10a	動噴散布

(6) 散布時の生育状況
果実肥大期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	被害果率（％）	備 考
展 示 区	0	収穫期に50果を 任意に選び調査
参 考 区	0	

(2) 薬害の有無
薬害は認められなかった。

4. 病虫害の発生状況

展示ほ場では発生が認められなかったが、周辺ほ場では少発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

展示ほ場では発生が認められなかったが、周辺ほ場では少発生であったことから、展示薬剤は、参考薬剤と同等の防除効果があると考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、ウメシロカイガラムシに対し、参考薬剤と同程度の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから、普及性はある。

農薬（果樹）実験展示圃成績書

農薬名：エコマイト顆粒水和剤 担当：石川農林総合事務所 伊達彩香

1. 設置場所 白山市御影堂町

2. 展示方法

(1) 対象樹種名 なし

(2) 対象病虫害名 ハダニ類

(3) 供試樹の概要

供試品種	幸水
栽培仕立	3本主枝仕立て
樹 齢	45年生
収 穫 期	8月7日～9月7日
栽植密度	3.8m×3.8m 69本/10 a

(4) 区制及び面積 1 区 1 連制 14 a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区 名	薬剤名	散布日	濃度・散布量	備考
展示区	エコマイト 顆粒水和剤	6月18日	2,000倍 350ℓ /10 a	SS散布
対照区	ダニゲッター フロアブル	6月18日	2,000倍 350ℓ /10 a	SS散布

(6) 散布時の生育状況

果実肥大期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	ハダニ類の寄生度（％）		備 考
	散布前 (6/16調査)	散布後 (6/27調査)	
展 示 区	3.3	2.5	任意に抽出し た30葉を調査
対 照 区	3.3	2.5	

(2) 薬害の有無
なし

4. 病虫害の発生状況

展示ほ場では、例年に比べて発生が多く、7月中旬から8月上旬にかけて早期落葉が見られた。周辺ほ場では、平年並～多発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

展示区では対照区と同様にハダニ類の寄生を抑えており、展示薬剤は対照薬剤と同等の防除効果があると考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、ハダニ類に対し対照薬剤と同程度の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから普及性はある。

農薬（果樹）実験展示圃成績書

農薬名：エコマイト顆粒水和剤 担当：県央農林総合事務所 西山駿

1. 設置場所 金沢市舘町

2. 展示方法

(1) 対象樹種名 なし

(2) 対象病虫害名 ハダニ類

(3) 供試樹の概要

供試品種	幸水
栽培仕立	3本主枝仕立て
樹 齢	20年生樹
収穫期	8月10日～9月3日
栽植密度	5m × 5m 40本/10a

(4) 区制及び面積 1区 1連制 10a

(5) 薬剤処理法（設計書に基づくこと）

区 名	薬剤名	散布日	濃度・散布量	備考
展示区	エコマイト顆粒水和剤 オキシラン水和剤加用	6月13日	2,000倍 500倍 300ℓ/10a	SS 散布
対照区	ダニゲッターフロアブル オキシラン水和剤加用	6月13日	2,000倍 500倍 300ℓ/10a	SS 散布

(6) 散布時の生育状況
果実肥大期

3. 調査成績

(1) 調査結果（具体的データによること）

区 名	寄生度		備 考
	6/12	6/23	
展 示 区	0	0	新梢から30葉を調査
対 照 区	0	0	

(2) 薬害の有無
薬害は認められなかった。

4. 病虫害の発生状況

展示ほ場では発生が認められなかったが、周辺ほ場では少発生であった。

5. 考 察（防除効果等）

展示ほ場では発生が認められなかったが、周辺ほ場では少発生であったことから、展示薬剤は、対照薬剤と同等の防除効果があると考えられる。

6. 普及性（普及上の知見、農家の意見等）

展示薬剤は、ハダニ類に対し、対照薬剤と同程度の防除効果があり、薬害の発生は認められないことから、普及性はある。